



2023年12月15日

ENEOS株式会社  
JX石油開発株式会社

## 日豪間の CCS バリューチェーン構築に向けた Santos との共同検討の開始について

ENEOS株式会社（社長：齊藤 猛、以下、「ENEOS」）とJX石油開発株式会社（社長：中原俊也、以下「JX石油開発」）は、オーストラリアの石油・ガス大手の Santos 社（以下、「Santos」）との間で日豪間の CCS（注1）バリューチェーン構築に向けた共同検討に関する覚書を締結しましたので、お知らせいたします。

今回合意した共同検討は、ENEOSの製油所および日本国内の様々な産業から排出されるCO<sub>2</sub>を回収し、オーストラリアに海上輸送した上で、Santosが保有する南オーストラリア州のムーンバ貯留サイトへの圧入・貯留を実施することによる CCS バリューチェーン構築に関する事業性を調査するものです。

さらに3社共同で、ムーンバ貯留サイトにおいて DACCS (Direct Air Carbon Capture and Storage 注2) および合成燃料製造の検討を実施いたします。

Santos は、ムーンバ貯留サイトにおいて、世界最大規模の CCS 事業に取り組んでおり、2024 年には CO<sub>2</sub>の圧入・貯留を開始する予定です。今回の共同検討は、同地での CO<sub>2</sub>貯留能力を最大限活かすことに資するものであり、ひいてはアジア太平洋地域のカーボンニュートラル実現に寄与することを期待しています。

ENEOSグループは、2023年5月に公表したカーボンニュートラル基本計画において、自社および他社のCO<sub>2</sub>排出量を削減する手段として2040年までに年間2,000万トン超規模のCCSの事業化を目指すことを掲げております。また、Santosとは、オーストラリアおよびマレーシアにおける石油・天然ガス開発ならびにパプアニューギニアにおけるLNG事業などを通じて良好な関係を構築してまいりました。今回の覚書の締結による日豪間の脱炭素分野での新たな検討は、3社間の関係をより一層深めるとともに、ENEOSグループのカーボンニュートラル基本計画達成に寄与するものとなります。

### <ENEOS 須永常務執行役員 コメント>

当社は、ENEOSグループの2040年に向けた長期ビジョンにおいて、「エネルギー・素材の安定供給」と「カーボンニュートラル社会の実現」との両立に向けて挑戦しています。カーボンニュートラルの実現に向けて、当社は温室効果ガスの排出削減、CO<sub>2</sub>の地中貯留および大気中からのCO<sub>2</sub>除去等、幅広い分野での取り組みを行っており、今回の覚書の締結はこれらの取り組みの加速に資するものと考えています。

### <JX石油開発 山田副社長 コメント>

当社は、CCS事業を事業戦略における重要な取り組みと位置付けています。米国テキサス州における、回収したCO<sub>2</sub>を油田へ圧入することで原油増産に繋げる Petra Nova CCUS（注3）プロジェクト

など、他社に先駆けて取り組んでいるさまざまな CCS 関連事業で培った知見を活かして、カーボンニュートラルに貢献してまいります。

- < 1 > CCS: Carbon dioxide Capture and Storage の略。排出される二酸化炭素を回収し地下に圧入する技術。
- < 2 > DACCS: Direct Air Carbon Capture and Storage の略。大気中の二酸化炭素を直接回収し地下に圧入する技術。
- < 3 > CCUS: Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage の略。CO<sub>2</sub> を回収・貯留することに加え、新たな商品やエネルギー生成のために利用する技術。

<ムーンバ貯留サイト 位置図>



<ムーンバ貯留サイト>



【本件に関するお問い合わせ】

E N E O S 株式会社 広報部広報グループ：03-6257-7150

J X 石油開発株式会社 総務部 総務・広報グループ：03-6257-6000